

## 「水引中学校のみなと六尺棒踊り伝承活動の取組」

### 1 学校名

薩摩川内市立水引中学校

### 2 学年・人数

1～3年生 58名

### 3 日時・場所

- (1) 令和5年6月～9月（ふるさと・コミュニケーション科の時間）
- (2) 水引中学校体育館・校庭

### 4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

#### (1) 名称

みなと六尺棒踊り（みなとろくしゃくぼうおどり）

#### (2) 由来

港町に伝わる郷土芸能である。鎌倉時代や戦国時代に始まったといわれる。各地で戦乱が相次ぎ、農地荒廃、賦役頻繁、自衛のための武器所有も許されずという有様で農民は、棒で護身するしかなかった。湊地区では昭和27年に青年団により踊らされたのを最後に長年途絶えていたが、70歳代の方々が中心となり50年ぶりに復活した。現在、保存会の方々が中心となって継承し、毎年6月に新田神社に踊りを奉納している。

#### (3) 構成等

6尺棒を使った「棒踊り」、8人が1組になり、歌者の「おーせーへーろー・・・」という歌に合わせ、踊り手が「さーさーさ」というかけ声を出しながら、棒を体の上・下部で打ち合わせてたたいたり、棒で地面をたたいたりしながら踊る。

### 5 保存会や地域との連携の具体

「みなと六尺棒踊り」保存会の方々と、年度当初に練習計画及び発表の場、踊りに必要な道具等について打合せを行った。練習には、毎回、唄者の方を含め7～10人の保存会の方々に指導していただいた。保存会の方々には、学校応援団に登録していただいている。

### 6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

第1回目の練習時に、保存会の方から「棒踊り」の歴史や由来、保存会の活動等について生徒に説明してもらい、生徒の興味や関心を高めるようにした。また、水引小中学校合同運動会では、生徒と棒踊り保存会の人たちが一緒になってみなと六尺棒踊りを披露し、文化財を伝承する意図を内外に示すことができた。生徒は意欲的に練習に取り組み、愛郷心を高めるよい機会となっている。

## 7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



【保存会の方々の自己紹介】



【実演を交えた保存会の方々の指導】



【小中合同運動会での披露】

## 8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

### 【1年生生徒】

- ・ 毎年運動会で中学生が踊るのを見ていたので、すぐに覚えられると思ったけど、実際にやってみると難しかった。棒踊りの先生が分かりやすく教えてくれたのでよかった。
- ・ 棒踊りの由来や歴史を教えてもらったことが勉強になった。来年も頑張ろうと思った。

### 【教職員】

- ・ 毎年指導に来てくださる棒踊り保存会の方々には、感謝の気持ちでいっぱいである。生徒たちは、指導者の方に対して感謝の気持ちを忘れずに、水引の伝統を受け継いでいってほしい。校区の小中学校の統廃合により、伝統文化の継承が難しくなっている。地域によっては、後継者がいなくなりつつあるところもある。学校と地域が一体となり、伝統文化を継承していく必要があると感じた。

### 【保存会から】

- ・ 暑い中、子供たちは一生懸命に取り組んでくれるので、とても嬉しい。とても上手に踊っていた。まだ照れがあるので、もっと声が出ると、さらによくなる。

### 【地域の方から】

- ・ 学校と地域が一体となって、伝統を受け継いでいっているような感じがして感動した。これからも頑張ってもらいたい。